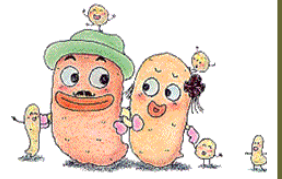


湯戸飛夜いけいけだより



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

記事:

- ・ 戸田駅発の日帰り旅行
山口湯田温泉地区視察
- ・ 連載小説
『男でござる 新説天野屋利兵衛』
第9回
- ・ 戸田駅周辺清掃
- ・ 戸田駅発の日帰り旅行
山口湯田温泉地区視察 感想迷作集
- ・ 今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

E-mail :

nishitokuyamamatizuk
urinokai@gmail.com

戸田駅発の日帰り旅行
山口湯田温泉地区視察

3月12日、戸田駅8:18発の山陽本線に乗り、途中で山口線に乗り換えて研修先の湯田温泉に到着しました。曇り空のもと、まずは、参加者9名が徒歩で中原中也記念館に行きました。

展示された直筆の詩を見ると、現代風の少し丸文字のような繊細な字で書かれており、生涯を詩人として生きた中也の世界に浸りました。続いて、向かいに建つ「狐の足あと」に行き、中原中也や狐のカフェラテアートのおしゃれなカフェラテなどを飲み、穏やかな時間を過ごしました。



通りを散策途中、無料の足湯も楽しみました。泉源の温度は70度と高く、少し熱めの足湯ですが、全身がポカポカして大変心地良いものでした。

会食場所の「防長苑」に向かう道沿いには、中原中也の詩や、言葉を遠慮しない種田山頭火の自由律俳句の碑が有り、皆が笑いながら防長苑に到着しました。

とても美味しい昼食（皆が絶賛！）と飲み放題メニューで、昼から大宴会！ビール、ワイン（赤白）、日本酒、焼酎が入り乱れ、酔っぱらいの集団となった状態で、外郎などお土産を各自購入し、帰途につきました。

湯田温泉は、随所に足湯やカフェが設けられ、若い人も街中に多く、活気がありました。

また、白狐のオブジェも道沿いに多数設置されて、雰囲気統一感も有り、学ぶことが多く感じました。

次回は、兵庫県赤穂市を研修先として予定しています。どなたでも参加を受け付けていますので、皆さんもぜひ楽しい研修にご参加ください。
(ゆ)



連載小説

『男でござる 新説天野屋利兵衛』

第九回 文城山 耕作

泉岳寺

これより物語は忠臣蔵へと進んでいく。

筆者は赤穂浪士の話へ移ろうとしたとき、何か心にざわつきのようなものを覚えた。思えば、今から約三二〇年前の話とは言え、無念にも人の命が奪われたという出来事である。

播州赤穂浪士たちが、藩主浅野内匠頭長矩の敵討ちで、吉良上野介の屋敷に押し入り、本懐を遂げたのである。その後討ち入った赤穂義士たちは全員切腹という悲しい出来事なのである。そうだ、この物語を続ける前に、東京高輪の泉岳寺へ浅野内匠頭と四十七士の墓参りに行こうと思いついたのである。

この鎮魂の旅にあたっては、筆者は二つの不思議な体験をした。

まずは墓参にあたって前泊したホテルである。築地の聖路加病院の近くであった。古地図によるとこの辺りは遠く江戸時代には鉄砲洲と呼ばれ、なんと播州赤穂藩の江戸上屋敷があったところだ。別に意図したわけではなく、旅行会社に依頼したらこうなったのだ。

もう一つの偶然というか不思議は、筆者が学生だった頃、同じ学生寮のおなじ部屋で、三年間の同じ時を過ごしたY氏のことである。

この歳になると、やけに当時のことが思い出されて、一度は会っておきたいの思いは募るばかりであった。もしかするとこのまま一生会えないで終わるのかなどとも思いました。Y氏とはかつて携帯電話の番号をやり取りしていたのであるが、その後筆者の不注意で携帯電話そのものを紛失するといったことがあって、どうにも連絡の取りようがないと困惑していたのである。

それが鎮魂の旅に出る前日のこと、自宅で泉岳寺への道順をスマホで調べていたところ、突然SNSのチャイムが鳴って、お知り合いではないですかの表示が表れた。よく見るとそのお知り合いとは、なんとY氏ではないか。おそらく彼の携帯に筆者の電話番号が残っていて、SNSを始めたので、彼の情報がこちらへ伝わってきたのであると推測される。

それにしても、このタイミングでY氏の情報を得ることができるとは、なんと偶然であろうか。

さっそくSNS上の無料電話をかけると、果たしてY氏の声が聞こえてきた。

「今、どちらに住んでいるの。」

「埼玉県の川越。」
「急なことだが、明日の夕方会える。」

「上京するのなら会おう。」
ということになり、泉岳寺への墓参りの前日に、新橋駅で再会を果たした。その夜は懐かしい学生時代の話で盛り上がったのは言うまでもない。

彼との話の中で、やはり学生寮で同室だった先輩のI氏との思い出に及んだ。I氏は現在北九州に住んでいるのだが、いつか二人で会いに行こうということになった。そして同じ釜の飯を食った三人は再開を果たしたのである。

このように偶然というか不思議が続くと、泉岳寺への墓参を思い立ったことから、何か不思議な力が働いたのではないかと思われてきた。

さて、話は泉岳寺に戻る。

筆者が泉岳寺へ行ったのは一月七日のことである。早朝から聖路加病院の裏手にあるホテルをチェックアウトして、朝八時には地下鉄の泉岳寺駅に降り立った。地上に出るとすぐに泉岳寺の門が確認された。かなりの登り勾配であるが、駅から間近なので、すぐに中門にたどり着く。中門には萬松山の札が掛けてある。その奥には「泉岳寺」の表札がかかった山門がある。山門右わきには大石内蔵助良雄のりっぱな立像がある。

山門をくぐり、まず本堂にお参りをす
る。冬の早朝の凜とした空気の中、人影
は少ない。境内を掃除しているお寺の人
が、

「おはようございます。」

と清々しい声であいさつをしてくれる。

筆者は取りあえず四十七士の墓参りを
しようと墓所へ向かった。途中、吉良上
野介の首を洗ったという首洗いの池など
を見つつ歩いていくと、やにわにかなり
どっしりとした石碑が右手に見える。そ
れには「義商 天野屋利兵衛浮図」とあ
る。四郎谷にある天野屋利兵衛誕生地の
石碑には及ばない。後ほどゆっくりと見
ようと思う。

四十七士の墓は浅野家の墓所にある。
墓所の前の門は、鉄砲洲にあった浅野家
の江戸上屋敷から移設したものだそう
だ。筆者が泊まったホテルの辺りにあっ
たのだろう。

門の所で、火の着いた線香を三百円で
買う。これが入場料のようなものだ。一
番乗りであった。墓守の女性に「二、三
本つつ線香を供えていくと、ちょうど四
十七士に行き渡りますよ。」
と、言い添えてもらった。なおも女性
は、

「どちらからですか。」と問うので、

「義商天野屋利兵衛の誕生の地の山口県
周南市からです。」

と答えると、女性は戸惑ったような雰
囲気で、

「あの人はいろいろな説がありますか
ら。」
と言った。

墓所に入り、まず浅野内匠頭の墓に
線香を手向け、次に奥さんの瑤泉院、
そして四十七士の墓に次々と線香を手
向けていった。

墓所の門を出て、もう一度天野屋利
兵衛の石碑の前に立つと、武士と商人
の境が門で分けられているのだと、妙
に納得をした。
(以下次号)



天野屋利兵衛石碑



大石内蔵助銅像



泉岳寺山門



浅野内匠頭の墓



義士墓入口の門



泉岳寺



首洗いの池



瑤泉院の墓

JR戸田駅周辺清掃

令和5年1月31日午前10時から11時半まで、周南市シルバー人材センター社会奉仕活動としてのJR戸田駅周辺のボランティア清掃活動に協力し、まちづくりの会から7人が参加しました。晴天で、風はあるものの、寒気団の中休みで寒さを感じませんでした。戸田駅前から上り線のトラックステーション、下り線のトラックステーションを通り戸田駅までの歩道を中心にゴミを拾いました。



編集後記

2月6日、トルコ・シリア大地震が起きた。マグニチュード7.8というとてつもないもので、5万人以上の方が死亡したとのことだ。被災された人たちは不便な生活を余儀なくされているという。心からお見舞いをする。

東日本大震災の時には、トルコの緊急援助隊が行方不明者の捜索などしたそうだ。今回は日本からもいち早く緊急援助隊が現地に赴いて、活躍したと聞く。

存命率が急激に下がるという72時間以上経つての救出が行われる度に、安堵と祈りの気持ちを抱いたものだ。

一方ウクライナの人たちやロシアの兵士では意図的に多くの命が奪われている。

どちらも同じ掛け替えのない命である。

この世から戦争がなくなる日はいつだろう。

戸田駅発の日帰り旅行

山口湯田温泉地区視察 感想迷作集

飲み放題 欲と一緒に旅れば ペットボトルの ワインにて酔う	足湯にて せなうずく水中の 同じ思想と 共有すべし	年齢と 証明できるものあるか 紙ハンズはく 旅の始	山頭火による 自由律の句 放送の禁止の言葉も 芸術に	山口の旅のお伴は ボロボロの 学生時代の 中也の詩集
足湯にて わいわいアツ 梅香る	春うらら 到着駅には 白まっね	料理旨し (さかなよし) 飲み放題で 春を酔う	春爛漫 楽しい旅は 酒と友	姿より 中身勝負と 酒精言
			足首で お湯をかき混ぜ 虫退治	

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページURL:

nishitokuyama.web.fc2.com

今後の行事予定

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。お手伝いしていただける方、大歓迎です。